

北海道ブランドとなる“たらの芽”生産用タラノキの選抜とクローン増殖技術の開発

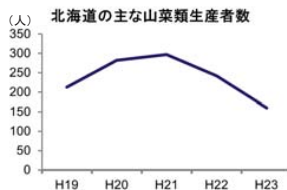
森林研究本部 企画調整部 企画グループ 錦織正智

①北海道の山菜生産業の問題

山菜生産は、農山村地域における農林家などの収入源として、また季節的な雇用機会の創出に役割を果たしてきました。しかし、生産者を取り巻く環境は、高齢化など様々な対策が必要な厳しい状況にあります。

本道の山菜生産業が直面している問題
 ・生産者数、生産額、生産量が減少傾向
 ・「天然もの」採取が主体(=人工栽培が普及していない)
 ・ふきが生産品目の全体の86%を占める。

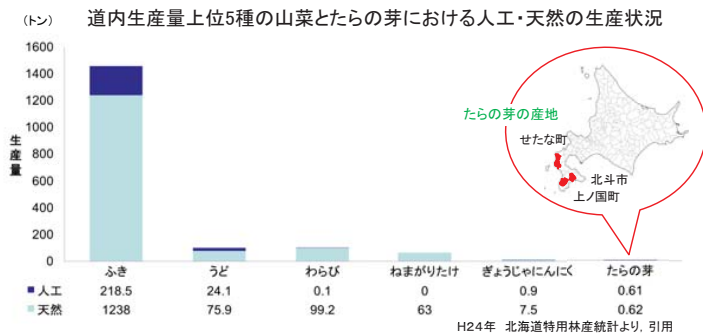
北海道特用林産振興方針(H25~29年)
 1)人工栽培による生産の拡大
 2)品質の均一化・安定した供給量の確保
 3)高付加価値商品の開発



“たらの芽”に注目！

②どうして、“たらの芽生産”を目指すのか？

理由1 本道には、“たらの芽”生産が普及する余地がある



理由2 市場では、出荷調整ができる“栽培もの”は、“天然もの”より高値で取引されている



“天然もの”から“栽培もの”への移行で、農山村地域に雇用の機会を創出

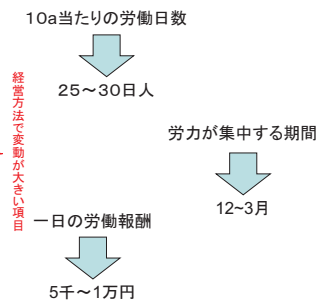
理由3 たらの芽生産は農閑期に最適な高収益品目

たらの芽の促成栽培における経営収支の目安

(10aの畑+ハウスで促成栽培した場合の試算)

費目	金額	備考
粗収入	収量(kg) 120	
	単価(円/kg) 3,500	
粗収入	420,000	
経営費	種苗費 26,000	
	農業費 7,000	
	減価償却費 80,000	
	その他 60,000	
	流通経費 92,360	
合計	265,360	
収益性	所得 155,000~	
	295,000	
所得率	37~70%	

注:JA山形おきたま、山梨県試験資料等を参照



たらの芽の面積当たり収量は、アスパラの1/2、市場価格は2倍以上

③研究の内容

本課題(戦略研究課題名「農村集落における生活環境の創出と産業振興に向けた対策手法の構築」)では、農山村地域等で“たらの芽”の栽培・生産を実現することを目的として、本道の林野に自生する豊富な山菜資源タラノキの中から、“北海道ブランド”としてふさわしい品質の“たらの芽”を産する個体を選抜すると共に、これを増殖・普及させるクローン苗木の生産システムを構築します。

- ① 本道に自生するタラノキから、トゲが少ないなどの栽培特性に優れた個体を選抜します。
- ② 組織培養を用いたクローン増殖技術を開発し、選抜個体を増殖します。
- ③ 栽培試験で既存の品種と選抜個体の比較を行います。
- ④ 既存の品種よりも優れた個体の栽培普及を進めます。

①②優良個体の選抜とクローン増殖

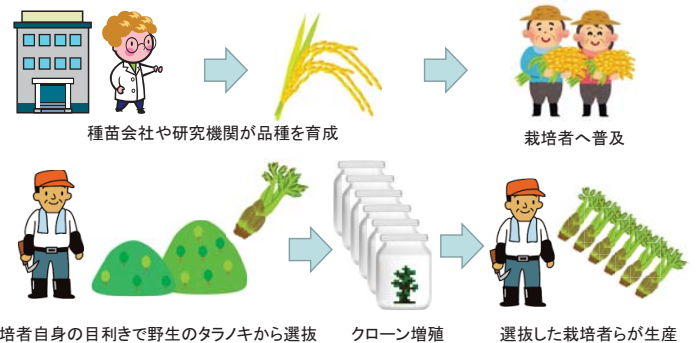


③④選抜した優良個体のクローンと既存品種を露地栽培で比較



④研究の見どころ

多くの栽培植物では、生産者は種苗会社や研究機関が育成した品種を栽培しています。しかし、本課題の場合は、生産者が自らの価値基準で選抜したタラノキを林業試験場の技術でクローン増殖することで品種を育成し、選抜した生産者の地域で普及・栽培します。このように生産者が直接品種を育成する方法は“**生産者育種**”と呼ばれ、“ブランド化”を実現するオリジナル品種の育成に優れた方法です。



⑤研究の進捗状況



ある町有林内で、町民の方がトゲの数が極めて少ないタラノキを見つけました。トゲの数が少ないタラノキは、栽培作業の効率の点から、優れた栽培特性です。



上のタラノキの葉の細胞を材料にして、苗木を大量生産する技術を開発しました。